

中古の文房具 カンボジアの子らに

支援の企業に 中学生も協力

カンボジアの小学生を支援しようと、中古文房具の回収を通じて、全国から約5万点の筆記具やノートなどが寄せられた。今月下旬の発送予定を前にした22日には、この活動を知った中学生が仕分け作業に協力した。

オフィス用品販売を手がける「カスターネット」(南区)。約2年前に社長の植木さん(41)が、カンボジアに小学校などを建設する活動をしている市民団体「アプサラ基金会」(東京)の佐藤敦子代表幹事に会ったことをきっかけに支援を始めた。

02年3月から顧客の企業に中古文房具の提供を呼びかけた。さらに、新聞報道やインターネットで知った個人や学校からも問い合わせや提供が殺到。これまでにノートや鉛筆、ボールペンなど約5万点が寄せられた。集まった文房具の保管場所が足りなくなり、ビル内の空き部屋を充てた。発送費などはレーザープリンターの使用済みカートリッジを回収、売却して捻出した。

この取り組みを知った藤森中学校(伏見区)は、同社に「総合学習の時間を活用して生徒の体験学習に役立てたい」と申し出た。

同社は申し出を快諾。22日午前中は植木さんが、板とチヨークをノートや鉛筆代わりに使っているカンボジアの小学生の様子や文房具の回収の経過などについて説明。午後から同社で、希望した1年生25人が今月末に発送する予定の約1万点の仕分け作業をした。

自分たちで集めた中古の筆記具なども持参した生徒は、鉛筆を長さ別に分けたり、ノートを束にして袋に詰めたりした。

「役に立ちたい」

参加した一人、麻生千代さんは「たくさんの方が協力していることに驚いた。回収を学校全体に広げて役に立ちたい」と話した。

寄せられた文房具は、数回に分けてアプサラ基金会がカンボジアに建設した小学校の児童らに贈られる予定だ。

植木さんは「途中で子どもたちの文具がなくならないよう継続して支援したい。日本の子どもにも取り組むを通じ、社会に対する優しい気持ちを育んでもらえればうれしい」と話している。

問い合わせは同社に電話(075・681・9100)か、電子メール(int@castanet.co.jp)で。



寄せられた鉛筆を仕分けする藤森中学校の生徒たち＝南区で

オフィス用品販売会社 提供呼びかけ…5万点届く

藤森中「体験学習に」と1万点を仕分け作業